

令和4年度第2回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会会議録(概要版)

- 1 日時 令和5年1月13日(金) 午後1時30分～午後3時
- 2 場所 議会大会議室
- 3 出席委員
森田委員、加藤委員、小澤委員、木下委員、熊谷委員
- 4 議事
報告事項
(1) デジタル田園都市国家構想総合戦略について
協議事項
(1) 青梅市人口ビジョン改訂版(案)について
(2) 第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂版(案)について

(配布資料)

資料1 デジタル田園都市国家構想総合戦略(概要版)(抜粋)

資料2 青梅市人口ビジョン改訂版(案)

資料3 第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂版(案)

参考資料 第7次青梅市総合長期計画基本構想・基本計画

(令和4年青梅市議会定例会令和4年12月定例議会資料)

発言者	会議の概要
会長	<p>(開会)</p> <p>令和4年度第2回青梅市まちひとしごと創生総合戦略推進懇談会をこれから開催させていただきたいと思います。、</p> <p>本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。、</p> <p>新型コロナウイルスは、第8波のピークはまだこれからになるとのこと。</p> <p>委員の皆様方には、対策には気を抜かず十分に自己防衛をしていただきたい。</p> <p>第7次青梅市総合長期計画では、持続可能な地域の実現や、目指すまちの姿が盛り込まれており、私達が目指す青梅市としてまとまっている。</p> <p>我々青梅市まちひとしごと創生総合戦略推進懇談会も、この第7次青梅市総合長期計画にリンクしている部分もあり、この青梅市まちひとしごと創生総合戦略についても、来年度から一旦仕切り直して5か年の改訂版第2期の推進が始まる。</p> <p>来年度から始まるその5か年計画を策定するためにも、今日は委員の皆様から多くのご意見を出していただき、事務局の方で取りまとめていただきたい。</p> <p>では、次第の2、報告事項の1、「デジタル田園都市国家構想総合戦略について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p><「デジタル田園都市国家構想総合戦略について」、資料1を用いて説明 その他、参考資料についての説明></p>
会長	<p>事務局から説明があった、「デジタル田園都市国家構想総合戦略について」ご意見やご質問があればお願いしたい。</p>
委員	<p>デジタル田園都市国家構想のお話の中でマイナンバーのお話があり、私もマイナンバーカードを持っているが、結局使い道があまりなくて、ほとんど使っていない状況が続いている。元々、金融、お金の税金のところからの活用ということだったと思うが、それをうまく市民の方が便利になるよう、色々な形で独自の機能を持たせることができるというお話があった。</p> <p>なので、そういうところをしっかりと考えていけば、かなり利便性が上がるのではないか。</p> <p>デジタルの話ですと私も企業に勤めているが、在宅勤務でリモートで仕事をするというのがかなり定着をしていて、ほぼ社員の半数がリモートで勤務をしているという状況になっている。</p>

	<p>ただそれには弊害もあり、会って話しているようなアイデアが出るとか、プラスアルファの話ができるとか、あとは大人数と一緒に話をするということがリモートだとやりにくいところがあり、そういったところも工夫されてデジタルでうまくやれることがあるのであれば、この構想どおりに地方にいても仕事がしっかりと今と同じパフォーマンスが出る仕事ができるんじゃないかと思う。</p> <p>何度かこの会でドローンについて話をさせていただいているが、昨年12月5日にドローンの国家資格が初めて制定をされて、人がいる地域を目視外といって、ドローンが見えなくなっても飛ばしていいという資格ができた。</p> <p>ただ、その資格の取り方は、まだ国から詳しく示されていないが、せっかく青梅は広い土地を持っていると思うので、そういったドローンを活用する、ドローンの資格を取るための場所作りですとか、実はまだまだこういったものは整備されておらず、特に東京都内では飛ばせる場所が少ないので、こういった広い地域に整備できると、非常に人も集まる可能性もあり、西多摩や青梅市で、活用できるのではと考えているので、ぜひそういうところも視野に入れていただきたいと思っている。</p>
<p>会長</p>	<p>ドローンについては私も同じようなことを考えていて、都市部ではドローンは規制があって、使いにくい。青梅市では多分そのドローンを活用した色々なサービスが可能なのではないかと思う。今後は他の市町村に先んじて、ドローンの有効活用を青梅市の場合にはできるのではないかと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>私もマイナンバーカードもちろん持っているが、今後どのように活用をと言われると、今すぐ出てこないというのが正直なところ。</p> <p>資料1の中段の結婚出産子育てについて、東京都あるいは国でも話がいろいろ出ているように、青梅市としても手厚くやっていただければ進むのではないかなと思っている。</p> <p>もう一つ、国の機関として私どもが力を入れているのは、この資料にあるとおり、中段の右側にあるデジタル人材の育成確保といったところの項目の中に職業訓練デジタル分野の重点化というところがある。</p> <p>昨年から政府の方でもリスキリングあるいは在宅で仕事をしながら訓練を受けてその訓練は国から助成金が入るとか、構造的な賃上げのために、スキルアップのために訓練を受けて労働移動を潤滑にするというような、雇用調整助成金が少なくなるとそちらの方に動いていくというのは国の動きだが、これはもう国全体として動く話だというふうに思っている。</p> <p>何社か、青梅市内の企業に助成金について話をさせていただいたときに、国の制度よりも、青梅市の方に良い助成制度があり、こちらの方が使いやすいのではないかという意見もいただいたことがある。</p>

委員	<p>そういった点で、国だけではなく、市で、地方でできることをしっかりと広めてもらえればと思う。</p> <p>私は23区内の方からこちらの方に通っているが、先ほど委員が言ったように在宅勤務とか、そういうことがだんだん広まってきつつある中で、やはり自然というところを考えれば、どんどん人口というかですね人が流入してくるのではないかなというふうに思っている。</p> <p>マイナンバーカードについては、私は持っていません。パスポートや免許証があり、保険証は別にある。今度保険証が一体化されるということでちょっと慌てておりますが、持ってよかったって思えるような方策を打ち出さないとと思う。</p> <p>この3番目のところに誰1人取り残さないということが書かれているので、こういう申請するハードルというのを、みんなが超えられるようにするというのも、特に高齢の方とか申請しにくい方のための補助やお手伝いということも必要になってくると思う。</p> <p>あと、今紹介があったこのデジタル田園都市国家構想総合戦略の全体像というのは国からそういった通知があったということで、これを全部、この第7次青梅市総合長期計画の基本構想基本計画に反映させたいということで今ご紹介があったというところでしょうか。というのは、裏面を見ると、色々なKPIを使用した取り組み例があるというので、非常に多くのことが出ているけれども、これを全部可能にするというのはなかなか難しいのではないかなと思う。どういったところを重点的に行う予定なのか、もしかしたら計画の中にあるのかなと思いき質問させていただいた。</p>
事務局	<p>委員からご質問いただいた件で、第7次青梅市総合長期計画については、青梅市の施策の展開ということで、このたび取りまとめをしたというのが1点目で、12月23日付の内閣府の方からの通知も説明をしたが、これについては国の方からこういった考え趣旨に基づいて、各自治体ごとその特性に合った形で、地方版総合戦略の改定を行うようにということ。</p> <p>青梅市としては、資料1の表紙の中の真ん中のフレームの中のエッセンスの部分は、きちんと押さえて、第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定をし、委員から指摘のありましたKPIについても、青梅市独自の、青梅市に見合った形のKPIを設定していくということ。あくまでも国からの例は一例という形で捉えているので、その点をご理解いただきたい。</p>
委員	<p>デジタル田園都市国家構想ですけれども、私の周辺は実はデジタルに対して何かこう要求をあまりしていないというか、デジタルに依存しない、デジタルなくてもいいという社会がまだまだ続いている。</p>

<p>会長</p>	<p>一方で、人口の減少はあり、少子高齢化はどんどん加速しているが、その田舎にあえてやってくる外部の人たちというのは、いっぱいいて、そういう人たちはおおむね都会から来られるわけで、都会に匹敵する情報やサービスを利用したいとか利用できるから田舎に行きましたという方が多くて、話を聞いていると、デジタルというものを自分の生活の中に上手に組み入れているという気がする。</p> <p>今、最初から田舎つまり私の周りのようなところに住んでいる人たちにデジタルを利用して便利に生活しようと言っても、特段そういうことを歓迎するような意見や発想は出てこないが、別の世界、新たに生まれつつある外部からやってきた人たちは、現在も活用しているが、未来も率先してデジタルについて取り込んでいこうという意識が高いように思う。なので、問題を一緒にするというよりは、そうやって外部から流入してきて、デジタルを十分に活用して尚且つ、今後さらにそのデジタル的發展を望む人たちに、どう対応するかということ、対応しなくてもいいのかもしれないけれども、デジタル化を特に自分の生活の中に要求していない人たちに、上手に利用できるようなデジタルシステムを考えていくかという二通り考えた方がいいかなというように思っている。</p> <p>マイナンバーカードについては、私は取得はしているが、落とすと気持ち悪いよねと言って、机の中にしまっている。上手に利用するとさっき申し上げたデジタル化を特に望んでない人たちにも、浸透させていくことができるのかなというように思っている。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>私から質問ですが、国から出された戦略を、まず総合長期計画に落とし込んでいて、その総合長期計画が青梅市にとって一番上の計画という位置付けだとすれば、市のまち・ひと・しごと創生総合戦略に落とし込む場合に齟齬があってはまずいので、そここの調整を事務局の方でしてもらい、次回の検討の時に、できるものとできないもの、あるいはどれが絶対必要なものかということ意見をいただしてもらうことが必要と思う。</p> <p>そもそも、今あるものをデジタル化して、それでデータ分析をすると、そこに答えがあって何を求めているとか、市民がどういうことをしてほしいというのは、多分今あるデータの中にも隠れているかもしれないと思っている。</p> <p>ただ、全てのものがまだデータ化されてないからわからない。そういう中で、どういうことをしたらいいと思いますかと振られても、ちょっとみんな戸惑ってしまう。</p> <p>市民からしてみれば、今日どういうことを求められているのかなと思ったら、やっぱり心地よいサービスを青梅市から受けたい。</p> <p>心地よいというのは何かというのは、そういうデータの中に隠れているのかなと思う。</p>
-----------	---

	<p>ですから、青梅市らしきがあって、それが市民の方にご理解いただいて使えば、十分市民の方は、喜ばれるのではないかなと思う。</p> <p>今までも、仕事を作ることや、人の流れもそうだし、結婚子育てもいろいろ議論したし、魅力的なことをいろいろやってきている。</p> <p>ですから、新たにというより、今まで議論してきたことで、市民の方のためになることを進めていくというのが、ある程度答えらしきものなのかなと。</p> <p>だから誰1人取り残されないっていうこととデジタルって非常に矛盾していて、若い人たちはスマホにしてもパソコンにしてもすぐに慣れるけれども、高齢の方はそういう人生をまだ歩んでいないので、いきなり今になって、70代・80代になってから、はいパソコン渡しますから、それでやってくださいといっても、難しいわけです。</p> <p>ですが、それでは前に進まないから、サポートが必要なんです。</p> <p>だからサポートがついて、1人の方に教えて、1回やれば誰だってできるようになるわけだから、その第一歩目が踏み出せないから、なかなか進まないこういうことだと思う。</p> <p>ですからそういうサポートもぜひお願いしたい。</p> <p>それと子育ての場合も、都知事も考えているようですが、果たしてお金で解決できるものなのか。我々が小さい頃、当たり前前に結婚して子供を産んだというのは、それは未来にそんなに不安がなかった。だけど今の若い人たちは将来に向かって不安があるから、なかなか子供を作りづらいとか、子供ができないとかということではないか。結論は金じゃなくて、そういう未来に向かった何かしっかりしたことを一步一步実現していくことが、多分、青梅にお住まいの方たちも、これなら安心して子供を産めるといふようになっていくのではないかなと。</p> <p>そういうことで、国や市の総合長期計画と齟齬がないように、まずは具体的なもの出していただいて、委員の皆さんにご検討いただくということにさせていただければと思う。</p>
事務局	<p>第7次総合長期計画等と齟齬がないような形で、この第2期まちひとしごと創生総合戦略につきましての改訂作業を進めさせていただきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。</p>
会長	<p>では、次第の3、協議事項の1、「青梅市人口ビジョン改訂版案」について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p><「青梅市人口ビジョン改訂版案」、資料2を用いて説明></p>

会長	事務局から説明があった、「青梅市人口ビジョン改訂版案」ご意見やご質問があればお願いしたい。
会長	一点質問させていただきたい。総合長期計画の17ページの転入毎年40世帯90人はわかるが、転出の抑制はどういうことか。
事務局	<p>今現在この長期計画の策定の際に、市民アンケートをした中で、過去3年間に転出をされた方々にも、アンケートを実施した。この結果として、通勤などの都合で青梅から転出せざるを得なかったとか、結婚を機に青梅から転出されたとか、青梅市よりも東へと転出をされる方が、毎年かなりの数いる。</p> <p>これらの転出されていく方々をいかに青梅市に留め置くかというか抑制をしておくかということで、ぜひ青梅市にそのままお住まいになり続けてくださいという数値としてここに掲載している。</p>
会長	それが毎年65人となっているが、そういうのを係数を立てるときに読み込んでいくということですか。
事務局	先ほど近年の住民基本台帳を過去数年遡ったが、その流入流出のところを読み込んだ形でシミュレーションした数字ということでご理解いただきたい。
会長	政策をいろいろするのは大事なことだが、それぞれの理由があり、青梅が嫌だからということではなくて、どうしても仕事の都合あるいは結婚などの諸事情によって転出されるわけで、それを止めることができるものなのか。
事務局	その中のいくつかの要因としまして、例えば、通勤をする際の交通の便が良くなかったとか、勤務地と住居地との距離であったりだとか、お子さんが生まれていく中で子育て環境を他の自治体と比較をしていったりだとか、そういったところがございました。そういったところを逆手にとりますと、勤務地と住居地が離れていても問題ないよう、テレワーク環境の整備とか、交通の便に頼らなくても、こちらに仕事を作って仕事ができるとか、子育て環境であればもっと子育て環境を充実させるとか、青梅に住み続けたいというような状況を、この第7次総合長期計画の各種政策を展開をしていくことによって、青梅市に住み続けたいと思っていただく、そういった思いがこもっている数字だというふうにご理解いただきたい。
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>この人口ビジョンについては、何々だからいいとか、何々だから駄目という話ではないし、あくまでも展望・目標なので、しいて言うとその低く見積もった</p>

事務局	<p>方が、何か行政サイドで計画するときに、例えば税収だとか何かするときに、かえっていろいろ発案したり厳しめにする事ができるからいいとか、多めに見ておくと、もしそこに到達しなかったときに、その手当をしなきゃいけないとか、そういうことはあるのか。</p> <p>まず、例えば人口が減っていきましたときに、単に総数での減少というところの他に、この中の要素として、例えば高齢化率が現行の30%強からどれぐらいになっていくのか40%程度まで伸びていくとか、まずそういった要素としても、我々行政としては非常に危惧しなくてはいけないところがある。</p> <p>また、適正な学校数ですとか少子高齢化といったときに、人数が総数で減っていったときに、当然、少子高齢化が進んでいったときに、子供の数も減っていく中で、今の小学校16校、中学校10校というものについても、どこかの時点でやはり我々は考えなくてはいけない。人口が減少していく中で、ただ単にこの数字を見ていくと、これくらい減るんだなというのはあるが、その背景論、その次に考えなくてはいけないことというのも当然あるべきで、先ほど会長の方からもありました、データを見た上でどんなことを更に市として考えていくべきだとか、先を読んで展開していくべきだ、こんなことも考えられるんじゃないかなといったご意見をいただければというように考えている。</p>
委員	<p>人口の推計が過去これを見ている限り、人口全体で減ると高齢化率がかなり上がっていくということで、実際に東京都内でも、奥多摩町とか檜原村についてはもう高齢化率50%ということで、だんだんそちらに近づいていく先に、もう体験している町や村があると思うので、そちらの施策とか、やり方とかそういったところを参考にしていくのもいいんじゃないかなというように感じる。</p>
委員	<p>合計特殊出生率が、都内の中でも、青梅市は残念ながら低い方となっている。同じ多摩の中で上の方に行っているところを参考にするとか、あとそれから東京都の中でも、23区とは比較は難しいかもしれないが、政策比較とか、色々なその状況の比較をするのが必要かなという気がしている。</p> <p>若い人は、この市とこの市で隣り合わせていたら、サービスが良い方の市を結婚したら選んで住むというようなことをしますので、そういったようなことも必要になってくるんじゃないかなと思います。</p>
会長	<p>他にいかがですか。</p> <p>ご意見がないようでしたら、本件の人口ビジョンについては差し支えないということでよろしいか。</p> <p>(異議はなし)</p>

事務局	<p>続きまして、協議事項の2、第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂版案について、事務局の方から説明をお願いしたい。</p> <p><「第2期青梅市まちひとしごと創生総合戦略改訂版案」、資料3を用いて説明></p>
会長	<p>それではご質問や、基本目標設定にあたってこういうことに考慮してほしいとか、何かそういったご意見があれば、お願いしたい。</p> <p>特にKPIについては、数値化するのでわかりやすいといえばそうだが、なかなか数字と実態等の齟齬があったりとか、努力の成果が表れないとかいろいろあるので、何かこういう指標をKPIに使ったらどうかというご意見もあれば、出していただけるとありがたい。</p>
委員	<p>KPIの数字は、どこまでこの施策と目標達成のリンクがしきれているかというのが少し微妙だなと思う。基本目標3のところ、4ページの将来を見据えた安全安心なまち作りを推進ということでは、安全安心なまちの意味を考えたときに、やはり犯罪とか事故とかですね、火災ですとか、そういったものの件数が低ければ低いほどいいと思うので、そういったところも必要になると感じた。</p> <p>他のところでは、2つ目の基本目標の御岳山年間来訪者数について、御岳山だけに限られているが、市として何か実施すると上がるような色々な指標をですね、作っていただけたら、やりがいがあるのかなという気がしている。</p>
委員	<p>今回の資料の第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の各基本目標には、施策展開として、この第7次の長期計画における関連施策ということで、いくつか挙げられているが、これらが重点ということになり、KPIについてもこれに関する効果が測定できるような、この指標を作るとの理解でよろしいか。</p>
事務局	<p>そのような観点でKPI設定の検討をお願いしたい。</p>
会長	<p>今のところいくつかたたき台みたいなものを出してもらうか、これ以外に何を作っても、KPIだから数字ができないといけないので難しい。</p> <p>委員も発言されたが、御岳山の他にも、青梅奥多摩に素晴らしい山があって、土日は山巡りの方がたくさんお越しになって、それが数値化できるとすごい数の方がお見えになってると思う。</p>
委員	<p>感想めいた話になるが、魅力的な青梅市というところでいくと、私を感じているのは、どこか東京の中で違う点っていうと、やはり今は災害というところが</p>

<p>委員</p>	<p>キーポイントで、東京都あるいは日本全国でいろいろな施策を実施しているが、青梅市という地盤が強いというところがあると思う。</p> <p>災害を考えている方については、こういうところに住みたいと在宅勤務もあるしという観点から探されるというの方が、結構いるのではと思っている。</p> <p>私も何回か転勤の関係で引越しをしているが、そういう観点から私はちょっと探したこともあるので、ぜひそういった消防防災というところをきっちりとやっていただければ差別化できると思う。</p> <p>3 ページ目にもありますけど商業の活性化、地域内消費の向上という、これはもう今この地域も、アフターコロナ向けて様々に動いていると思う。そこも、しっかりとやっていくところかなと。</p> <p>以前も申し上げたが、「あそぼうよ！青梅」というコピーは大変素晴らしいなと思っている。JRさんは色々考えてくれていて、青梅アドベンチャーラインの発展性ということについて、非常に熱く語ってくださる。それをこの中に落とし込むといいかなと思う。</p> <p>「あそぼうよ！青梅」については、アドベンチャーラインというJRの標語とリンクしている部分があって、アドベンチャーラインと「あそぼうよ！青梅」とで1+1=2ではなくて、リンクすることで青梅のイメージアップになる。</p> <p>自然っていうことは一つの大きな強みだと思うが、その自然の中で生活することの楽しさ、面白さ。</p> <p>そういうことを表現できていると思うが、それを具体的にどうしていくかということを考えなきゃいけないな、ということがこの中に書かれている。しかしなかなか言及しにくくて申し訳ない。</p>
<p>会長</p>	<p>KPIは、また事務局の方で検討してもらいたい。</p> <p>ちょっと全体的な話になるが、やっぱり無から有を生むのはなかなか難しい。青梅には目一杯いいものがある。この青梅市の特徴のところにも書かれているとおり、山や溪谷は、自然っていう都市部にはないものを持っているので、やっぱりそういうことに関連付けて、施策というか人を呼び込むようなイメージで作り上げる方が現実的。都市部に山も川もないわけで、そういったものをもう現に持っているわけで、そういったことを強みとして捉えて、何か取り組んでいく方が私はいいいという気がする。</p> <p>ただいろんなことを数値化して測ってどのぐらい実現できたかということになるとちょっと難しい。</p> <p>だから、最初の話に戻ってそのデジタルのことになる、やはりベースとなる基本的なそのインフラみたいなものだけはやらないと人も来てくれないということなんだと思う。</p>

<p>委員</p>	<p>今、仕事の仕方が自宅で仕事をできるという環境がもっともってできれば。中小とか我々金融機関みたいなところは難しいが、そうでない会社は、さきほど委員が発言したが、50パーセントぐらいで全然平気と思う。</p> <p>在宅で仕事する方だったら、あんなゴミゴミしたところで仕事するより山や川のある美味しい空気のところ仕事の方が捗るに決まってるから、そういう呼び込み方にしたらどうか。だから最低でもベースとなるインフラはないとまづいと思う。</p> <p>沢井に引っ越してきた方で、日系三世のカナダ人の女性ですが、お仕事はアウトドアインストラクターで山登りのサポートとかキャンプとかそういうことの教室をやっている。沢井に拠点を置いて、この周辺の自然が好きなお客さんを呼んで、色々な体験を提供するということをやられている。この方が、去年ロゲイニングというのをされたが、オリエンテーリングみたいなものでポイントをいっぱい決めて、地図の中に落とし込んでいって、ポイントで自分のスマホで写真を撮って、ポイントで得た点数を加算して、このチームは何点取ったとかで順番が決まる。</p> <p>要領よくポイントを取った方がいいが、ゲームなのでみんな結構一生懸命やる。そうすると、地元に住んでる人間が知らないようなところにポイントがあって、変なところに変なお地蔵さんがあって、そこに行ってそこで写真を撮るとそのいわれが書いてあったりする。何々橋のたもととかに、外部からお客さんを呼び込む力があるということと、隠れた観光ポイントを日の当たる状態にすることができるということで、商工会議所にその話が来て、ちょっと補助金を支度させていただいた。商工会議所もこれは面白いということで、山の中でもできるけど、街中でもできるということで、今度青梅の旧市街で商工会議所が企画して青梅の旧市街を参加者に歩かせて、ポイントを取ってもらう。そうすると外部から来た人が青梅の中を歩き回って青梅の隠れた面白いところに足を運んで写真を撮って、拡散するというのをしてくれるはず。</p> <p>なので、それは商工会議所でやろうということで、多分今年やろうと思うが、新しい街っていろいろ便利で合理的にできてるけど、ロゲイニングなんかやって、物を見つけるようなそういう財産は持っていない。青梅はそういう意味だと隠れている我々自身も意識していないような楽しいポイントをいっぱい持っている。なので、「あそぼうよ！青梅」それから、アドベンチャーラインという路線で、イメージがそういう何か夢のある方向に向かっているのを、サポートすることを行政や会議所でできたらいいなというふうに思う。</p>
<p>会長</p>	<p>うちの会社は100周年だが、そのときの事業の中で、それと同じことを考えてやろうと思ったがコロナでできなくて、それはボツになってしまった。</p>

<p>事務局</p>	<p>まさに同じ計画をしていて、青梅のまちなかを歩いてもらって、どんどんスマホで写真をとってもらいたいみたいなことを考えていたが、とてもいいと思う。</p> <p>他に何か発言しておきたいことがあればお願いしたい。</p> <p>無ければ、それでは本日の内容については以上で終了とさせていただきます。本日発言のあった点については、人口ビジョンおよび総合戦略の改訂作業に向けて事務局の方で対応をお願いしたい。</p> <p>最後にその他として事務局の方から何かあればお願いしたい。</p> <p>本日の会議録について、用意ができ次第、委員の皆様にお送りするので、内容の確認をお願いしたい。</p> <p>今後の予定について、次回の懇談会については、本日配付をした通知のとおり、2月9日木曜日午前10時から本日と同じ会場において、開催させていただきたい。</p> <p>また、本日意見をいただいたKPI等についても、事務的にお示しできるものを用意させていただき、事前に各委員へ資料送付と併せて送付し、それらをもとに、意見を頂戴したい。</p>
<p>会長</p>	<p>以上をもちまして、青梅市まちひとしごと創生総合戦略推進懇談会を終了とさせていただきます。、</p> <p>大変ご協力いただきましてありがとうございました。、</p> <p>(閉会)</p>